

中央図書館



① 《ジオルジオ 君の歌がきこえる》

制作者：藪野健

制作年：1989年

寸法：162×324cm

素材：油彩、キャンバス

場所：中央図書館 2階

常に紙と鉛筆を持ち歩いてヨーロッパの街を旅していた作者がイタリア・ヴェネチアに訪れた時に描いたのが、この作品である。ヴェネチアの広場で製作中に、年老いた女性が語りかけてきたという。名をノラというこの女性は、ヴェネチアの住民であった。彼女はゴンドラ乗りだった夫のジオルジオとの思い出を聞かせてくれた。この作品の中央にいるのは、若かりしノラと亡き夫のジオルジオであり、そして二人が結婚式を挙げた教会が背後に描かれている。作者はあらゆる角度からこの広場をスケッチし、その景色にノラの思い出を加え、サン・ジョバンニ・エ・パウロ広場の絵画は完成した。後ろに写っているサン・ジョバンニ・エ・パウロ教会は14世紀に建てられた古典的なイタリアのゴシック様式の教会で、正面の大きな丸い窓が特徴的である。その横にあるのが、スクオーラ・グランデ・ディ・サンマルコというファサードが美しいルネッサンス様式の建物である。当時はコミュニティセンターのような役割を果たしていたが、現在では病院として機能している。何百年もの間外観の変わらない都市・ヴェネチアには、ノラのような住民の日常や、作者のような旅人の思い出など、常に様々な記憶が塗り重ねられている。

執筆者：笹島郁

② 《風の搭》

制作者：藪野健

制作年：1987年

寸法：116×116cm

素材：油彩、キャンバス

場所：中央図書館4階

ムデハル様式の大きな鐘楼が残るスペイン・アラゴン地方の小さな町の様子を、俯瞰する視点から描き出している。画面上方に広がる紺碧の青空と、重厚な色調で描かれた町やその奥に繋がる赤茶けた大地の風景とのコントラストが鮮烈な作品だ。町には煉瓦色の建築群が水平垂直に秩序を持って並び、その周りには車や人物、枯れ木がぽつぽつと配置されている。この閑散とした町の中央に置かれているのが、イスラム教とキリスト教の入り混じるこの地の特殊な歴史を映し出す教会の鐘楼、つまり、表題の《風の搭》である。この地の歴史と現実、そして藪野自身の記憶と空想とが混じり合い、見るものに超時空的な風音を感じさせる絵画となっている。

執筆者：石澤実歩

③ 《語りつがれた町》

制作者：藪野健

制作年：1988年

寸法：130×194cm

素材：油彩、キャンバス

場所：中央図書館3階

地平線まで広がる乾いた荒野のただ中に、家々がひしめくように立ち並び、小さな村落を形成している。この町はゴヤの生まれ故郷、フエンデトードスである。スペイン北東部のサラゴサ近郊にあるこの小さな町の中でひと際目を引くのは、丘の上に建つ教会である。この教会はスペイン内戦の際に焼失したため、作者が目にしたのは、再建された新しい教会であると考えられる。しかし、この作品に描かれた教会には、現在の教会には見られないロマネスク建築の趣が感じられ、19世紀の装いをした人々が道を行き交っている点からも、ゴヤが生きた時代のアラゴンの古い町並みを想起させる。作者自身が目にしたフエンデトードスの町にゴヤの生きた時代を重ね合わせ、目の覚めるような青空と太陽、赤い土の荒々しい大地といった、イベリア半島の普遍的な風景の中に、この町の歴史と作者自身の記憶を溶け込ませている。

執筆者：麻生悠

④ 《春城市島謙吉像》



制作者：櫻庭祐介（原型）、伊藤邦介（鑄造）、加藤哲夫（題字）

制作年：2010年

寸法：約250cm

素材：銅

場所：中央図書館2階

東京大学在学中に小野梓を通じて大隈重信と知り合った後に立憲改進黨に参加し、東京専門学校（後の早稲田大学）の設立・運営にも携わった市島謙吉（1860-1944年）は、1902年から1917年まで本学の初代図書館館長を務めた。自ら資料収集に赴き、蔵書の拡大に貢献した。その情熱は就任時に3万冊であった蔵書が、5年後には10万冊にまで増加したことからも伺える。彼の信条は、「本を集めて収蔵しておくだけでは存在しないも同然、積極的に公開すべき」というものであり、その姿勢は現代にまで受け継がれている。生誕150年を記念して造られた本作は、館長時代の写真がモデルとなっている。

執筆者：前田佳穂

⑤ 《熊野路・古道》

制作者：平山郁夫

制作年：1991年

寸法：170×364cm

場所：中央図書館2階から3階の踊り場

平山郁夫（1930-2009年）は仏教を主題にした作品を多数手がけ、仏教文化財の保護活

動にも勤しんだ。熊野路は和歌山県・熊野の参詣道であり、絵画の中の道はどの角度から見ても道が鑑賞者の方を向くようになっている。また、奥深くまで続く古道は「学問の深遠さ」を、上方で輝いている太陽の光は「希望と安らぎ」を表現している。この絵は、「学問はだれに対しても開かれている。」というメッセージを学生に伝えているようである。

執筆者：パク・ソンヨル

参考文献：

① 《ジオルジオ 君の歌がきこえる》

藪野健『絵画の着想 描くとはなにか』2003年、中央公論新社

藪野健『早稲田風景 紺碧の空の下に』2015年、中央公論新社

Basilica Santi Giovanni e Paolo Venezia ホームページ

〈<http://www.basilicasantigiovanniapaolo.it/>〉

② 《風の搭》

『藪野健一記憶の都市』2007年、府中市美術館

藪野健『子ども美術館 21 たてものかくー建築と絵画ー』1983年、ポプラ社

③ 《語りつがれた町》

藪野健『絵画の着想 描くとはなにか』2003年、中央公論新社

『藪野健展』1980年、日動画廊

堀田善衛『ゴヤ1 スペイン・光と影』2010年、集英社

④ 《春城市島謙吉像》

藤原秀之「初代図書館長市島春城生誕 150年記念事業」

〈<http://www.wul.waseda.ac.jp/Libraries/fumi/80/80-02-03.pdf>〉

早稲田大学図書館ホームページ 「早稲田大学中央図書館のあれこれ」

〈http://www.wul.waseda.ac.jp/CLIB/clib_etc.html〉

⑤ 《熊野路・古道》

『平山郁夫：熊野路を描く：世界遺産登録 10周年記念特別展』2015年、田辺市立美術館